

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 プラスチック資源循環普及促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 廃棄物対策課 資源循環推進係 電話番号：058-272-1111(内2963)

E-mail：c11225@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,304 千円 (前年度予算額： 3,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,000	0	0	0	0	0	2,777	0	223
要求額	1,304	0	0	0	0	0	605	0	699
決定額	1,304	0	0	0	0	0	605	0	699

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

プラスチックは、利便性と機能性の高さから社会に深く浸透し、使用をゼロにすることは不可能であることから、持続可能な形でプラスチックを使用し続けるため、プラスチックごみの発生抑制と散乱・流出抑制を徹底する必要がある。

令和4年度には「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」（同年4月施行）を踏まえ、使い捨てプラスチック製品の使用合理化や再生可能な原料への代替などに取組む事業所を登録する「岐阜プラスチック・スマート事業所『ぎふプラスマ!』」制度を創設。事業所や県民に対して、具体的取組みや環境に配慮した製品の選択等について普及啓発することで、脱炭素、海洋汚染、生態系への影響などプラスチックを取り巻く様々な問題に対応し、持続可能な社会・自然環境を構築にむけた行動変容を促す。

(2) 事業内容

■県プラスチック工業組合等と連携した県プラスチック資源循環懇談会の開催
・プラスチック資源の循環を実現するための具体的方策の検討や、課題解決のための意見交換の場として懇談会を開催。

■事業者及び県民に向けた「岐阜県プラスチック・スマート『ぎふプラスマ!』」制度の普及啓発

- ・新制度の登録数増加をめざした普及啓発を実施。
- ・問題意識の情勢及び具体的取組の促進のため、登録事業所を対外的にPR。

【目標】2025年度 1,500店舗（第3次岐阜県廃棄物処理計画）

(3) 県負担・補助率の考え方
ふるさと環境保全基金を活用

(4) 類似事業の有無

本事業と一体となって、プラスチック資源循環推進を普及啓発する事業として「ワンウェイプラスチック代替製品普及促進事業」を実施

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	420	懇談会委員報償費
旅費	174	懇談会委員費用弁償、関係者打合せ
需用費	614	普及啓発資材、チラシ・ポスター等印刷製本費
役務費	50	郵送代
使用料	46	懇談会会場借り上げ
合計	1,304	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3次岐阜県廃棄物処理計画（令和3年3月策定）

- ・「プラスチックごみ削減の推進」及び「各主体との連携強化」を重点分野として位置づけ

岐阜県海岸漂着物等対策推進地域計画（令和4年3月策定）

- ・「目指すべき将来像」は、「（略）プラスチックごみの流出抑制をはじめ、内陸県としての役割を各主体が認識し、相互連携協力のもと流域圏と一体的な取組を展開する社会」

(2) 国・他県の状況

- ・モデル事業所または類似制度を運用している都道府県
8県（岩手、富山、長野、鳥取、島根、徳島、香川、福岡）
※うち新法の内容を含む制度設計は3県（岩手、香川、福岡）

(3) 後年度の財政負担

ふるさと環境保全基金を活用

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・プラスチック資源循環促進法に係る国の基本方針では、県は、市町村へ技術的援助を与えるほか、「国の施策に準じてプラスチックの資源循環への促進等に必要措置を講ずるよう努めるもの」とされていることから、本事業主体となることは妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

第3次岐阜県廃棄物処理計画の中間目標年度である令和7年度までに、県民及び事業者において、プラスチック資源の循環につながる取組が浸透し、行動変容が実現している。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①「ぎふプラごみ削減モデルショップ」登録数	540	978				
「ぎふプラごみ削減モデルショップ」から新制度へ移行						
②「（仮称）プラスチック資源循環モデルショップぎふ」登録数	-		1000	1200	1500	67%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸漂着物の発生抑制に関するDVDを作成し県内学校へ配布することで普及啓発を図ってきた。DVDの活用状況を調査したところ、54校3,215人がDVDを視聴 ・「ぎふプラごみ削減モデルショップ」登録店舗数の増加により、一定程度使い捨てプラスチックの使用削減に関する取組の浸透と認識が得られた。
	指標① 目標：800 実績：964 達成率：83%
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・県プラスチック工業組合等と連携し、プラスチック資源循環推進懇談会を設置。プラスチック資源循環に資する具体的方策等を協議。令和3年度は、環境配慮型食品容器の試供品モニタリングの実施に向け計5回の協議会を開催。 ・モデルショップ制度について、エシカル消費の考え方を交え、県民と事業所に対して新聞広告を活用し普及啓発。
	指標① 目標：1000 実績：978 達成率：98%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>プラスチック資源循環促進法の施行により、関連する全ての主体は役割と責務を果たす必要があることから、継続した事業の実施が必要。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>モデルショップ制度については、大手スーパーやコンビニエンスストアが登録済みである中、登録店舗数が増加。潜在的に関心のある店舗の掘り起こしができた。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>類似した事業所を対象とする他事業の啓発資材等に情報掲載するなど、機会を捉えて幅広く普及啓発をおこなった。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 県民及び事業所に対して、新制度を活用し、使い捨てプラスチックの使用削減だけでなく、使用済みプラスチックのリサイクルや分別回収の促進など、プラスチック資源循環に資する具体的取組みへの移行を促す必要。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県プラスチック工業組合等と連携した懇談会では、新制度を活用したプラスチック資源循環の促進に賛同いただいております。県民の行動変容についても期待を寄せられています。岐阜県プラスチック・スマート事業所制度において、新たな業種の登録を促進し、積極的に県民と事業所にプラスチック資源循環に資する具体的取組について情報発信を行っていく。</p>
--

(他事業と組み合わせる場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	